

卒業式 校長式辞

日本では、桜のつぼみがほころび始める三月、中学部三年生の〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんの三名と、小学部六年生の〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんの五名とを合わせて八名の皆さんが本校を卒業されることになりました。卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

昨年末に発生した新型コロナウイルスによる感染症が世界中に広がり、多くの学校が休校になったり、卒業式が中止されたりする中で、こうして在校生や保護者、ご来賓の皆様と一緒に卒業式を行えることをありがたく思います。

「日本人としての誇りを持ち、豊かな感性と確かな学力、たくましい体をもった児童生徒の育成」…卒業のこの日に向けて一年間、ドーハ日本人学校全体でこの目標に取り組んできました。

私たち日本人は世界平和を希求し世界の中で信頼される名誉ある位置を占めたいと願う中、そのアイデンティティとして、古くから知育・徳育・体育の三育のバランスある成長を、教育の基本として大切にしてきました。

知育は、自らをしっかりと鍛え正しい判断ができる人になることを。

徳育は、苦しい状況にあっても粘り強く乗り越えていく力と、感性豊かで思いやりの行動がとれる人になることを。

体育は正しい判断や思いやりを生み出すための健康でたくましい体を持った人になることを、目指しています。

進学される中学校、高校でも、多くの仲間と関わりながら、今度は自らが意識して「知育・徳育・体育の三育をより高いレベルで育てていくように心がけてほしいと思います。

皆さんがこのドーハ日本人学校で過ごしたそれぞれの日々…、そこには、楽しく充実した思い出だけでなく、人に言えない悲しみや、苦しみもきっとあったかと思います。

けれども、私たちは「本気で取り組んだ時」「本気で悩み抜いた時」にこそ、今までの殻を突き破って、先を見通す賢さと力強さを身につけていくのです。

困難に直面した経験が真に粘り強く思いの深い心の優しい人を育ててくれます。

今、中学校と高校への進学を控え、期待と共に不安な気持ちもあることでしょう。

新しい仲間との出会い、難しくなる学習内容、先輩との様々な部活動・・・、これを多くの友達や仲間を作るチャンスとしてください。

困難な時、苦しい時ほど、「自分を育てる大切な時間」と信じ、すべての経験を前向きに捉えていくことです。

これから迎えるたくさんの経験を通して、人の温かみを知り、みなさんを支えてくださる人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、たくましく豊かな人生を歩んでいって欲しいと思います。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、本日までのドーハ日本人学校に対するご支援とご協力に対しまして厚く御礼申し上げます。

卒業生八名は、本日をもって、ドーハ日本人学校を卒業いたしますが、これからが正に大海原への航海の始まりです。遠くにお子様を置かれても、絆と目線はしっかりと、常に心の灯台となってお子様を支え続けていただきたいと思います。

お忙しい中、ご臨席を賜りました御来賓の皆様、本日は誠に有難うございました。卒業生が、自己実現を目指す中で、まだまだ、皆様方のお力添えが必要です。どうか、今後もこれまでと変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

三月の爽やかな風にのり、卒業生のみなさんが大いなる未来へと羽ばたく本日、ご隣席の皆様全員の益々のご多幸とご活躍をお祈りし、式辞といたします。

令和二年三月一六日

ドーハ日本人学校長 小松正宏

(卒業証書授与式で行う予定であった、式辞の文章をそのまま公開しています。尚、本文中の個人名については、個人情報保護につき、公開を省略させていただいております。)